

調査成果

今回の調査は、今まで調査をしていない二俣城の西側地区にて実施しました。

今回の調査成果は、

①西曲輪の南側斜面にて、大規模な石垣（総延長 13m 以上、高さ約 6m）を確認

A：石垣の上部にて発掘調査を行い、裏込めが良好な状態で遺存していることが確認でき、大規模な積み直しは行われていないことが判明しました。また、西曲輪は、石垣の整備に伴い、細かな石を大量に含んだ土で整地していることが判明しました。

B：石垣の下部にて発掘調査を行い、地中には 2 石（約 0.6m）が埋没していることが判明。また、1.2m 以上にわたり整地が行われていることが判明しました。

②西側の曲輪群を中心に倒木などを整理し、曲輪や土塁、竪堀が明瞭に確認できるようになりました。

◆なぜ、城郭の正面にひけをとらない石垣が西曲輪の南側斜面にあるのか

古い地籍図を確認すると、この石垣の南側に位置する川口集落からこの石垣付近を通り、城内へと入る道が記されています。石垣が築かれた当時は川口集落と川口集落の南に位置する鳥羽山城跡の間を二俣川が流れ、天竜川に合流していました。川口集落は、立地の特徴や集落の構造から川湊として利用されていた可能性が窺えます。二俣城跡西地区の石垣が確認された地点は、天竜川と二俣川を利用した交通や物流の要衝として重要視されていたことが窺えます。



西曲輪南側の石垣



石垣の裏込め検出状況



埋没石垣検出状況

◆◆お願い◆◆

ご案内する箇所には危険箇所や私有地があるので、現地説明会当日以外には入らないでください。

お問い合わせ

浜松市市民部文化財課
〒430-8652 浜松市中区元城町 103 番地の 2
TEL:053-457-2466 FAX:053-457-2563
E-mail:bunkazai@city.hamamatsu.shizuoka.jp

二俣城跡現地説明会

浜松市文化財課

2014年9月21日(日)

概要

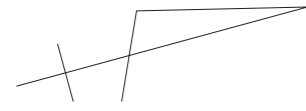
二俣城跡は天竜区二俣町に所在し、徳川・武田の争奪戦が繰り広げられた城郭として知られています。また、安土桃山時代の姿を随所に残しながら現在に至る城郭で、浜松の中世史のみならず、日本の歴史を考える上でも貴重な歴史遺産といえます。

今回の調査は、今まで調査されていない西側の曲輪群を中心に行い、二俣城の西側地区の構造を詳細に確認し、新たな情報を得るとともに、二俣城の構造や役割を再評価することを目的としています。



二俣城跡とその周辺の城郭・砦

年代	勢力	日本史上のできごと	二俣城・鳥羽山城関連記事
1560	今川	桶狭間の戦い 永禄3年(1560)	—この頃、二俣城の要塞化がはじまる—
1570	徳川	三方原の戦い 元亀3年(1572)	徳川家康、二俣城領有
	武田	長篠の戦い 天正3年(1575)	武田信玄、二俣城占領 遠江に侵攻
1580	徳川	本能寺の変 小牧・長久手の戦い	徳川家康、二俣城の四方に砦を築き武田方より奪回(二俣城攻めの際、鳥羽山城に本陣がおかれる) 家康長男信康、二俣城において自刃
1590	豊臣	小田原の陣 文禄の役	家康の関東移封、堀尾吉晴、浜松 12 万石の城主となる(堀尾吉晴の弟、堀尾氏光(宗光)、二俣城入城)
1600	廃城	関ヶ原の戦い 慶長5年(1600)	—この頃、二俣城・鳥羽山城の石垣が整備される— 堀尾氏、出雲へ移封、二俣城・鳥羽山城廃城



天竜川

----- 想定される川口集落から大手門への道

□ 発掘調査区

■ 石垣

/// 土塁

▨ 堀切・縦堀・横堀

二俣川 (旧流路)

西側の曲輪群

2014年度調査区

川口集落

井戸曲輪

①

②

③

IV

2012年調査区

天守台

2009年調査区

本丸

本丸中仕切門

2010年調査区

本丸北門

南曲輪

2010年調査区

蔵屋敷

二の丸

2011年調査区

大手門

北曲輪

2012年調査区

曲輪

